

頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム  
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—  
報告書

中部アフリカ熱帯林住民の生活史に関する比較研究  
—貨幣経済の浸透と生業戦略の多様化—

派遣者：大石高典

派遣期間：2014年3月17日～3月23日

派遣先：スペイン・バルセロナ自治大学

キーワード：遅延利得型経済，時間選好性，狩猟採集民，焼畑農耕民，カメルーン

#### 1. 研究課題について

中部アフリカ諸国の中でも長期にわたって比較的政治経済が安定したカメルーン東南部において、狩猟採集民バカと近隣農耕民の社会は継続的に市場経済にさらされてきた。その結果、経済的不平等の拡大とともに、遅延報酬を許容し富の蓄積を積極的に志向する少数者と平等主義的多数者の間で萌芽的な社会階層化と葛藤が生じている。本研究課題では、外部社会との接触のあり方が対照的な中央アフリカ共和国南部地域との比較から、生業活動の多様化や定住化に伴うライフスタイルの変化が、彼らの生活史戦略にどのような影響を与えているのかを定性的／定量的に検討することを主眼とする。両者の最も大きな相違は、バカ人が近隣農耕民を媒介とせずに外部社会と直接交渉を始めているのに対し、アカ人の外部社会との接触は、近隣農耕民の媒介のもとに限られていることである。

#### 2. 派遣の内容

受け入れ研究者のレイ＝ガルシア教授は、EUの支援を得て派遣者の調査地と隣接するカメルーン東南部のロミエ地区にて、バカ・ピグミーのローカルな環境知識から文化と適応の関係について探る研究プロジェクト（LEKプロジェクト: The adaptive nature of culture. A cross-cultural analysis of the returns of Local Environmental Knowledge in three indigenous societies, URL: <http://icta.uab.cat/Ethnoecologia/LEK/>）をおこなっている。今回の滞在では、レイ＝ガルシア教授のほか、同プロジェクトのコーディネートを補佐しているポスドク研究員のファレ博士と情報交換および共同研究の可能性について打ち合わせを行った。

#### 3. 派遣中の印象に残った経験や体験

レイ＝ガルシア教授は、理学部の環境科学研究所に所属する環境民族生態学(ethnoecology)研究室を主宰している。研究室ではLEKプロジェクトの他にインドを主なフィールドに考古学者と人類学者が共同でシュミレーション・モデルを開発するSimulpastなど、複数の国際的なプロジェクトが走っており、プロジェクト間のディスカッションがたいへん活発な印象を受けた。LEKプロジェクトは、カメルーンだけではなく、南米、東南アジアにも調査地を設けており、研究メンバーの多くはバルセロナに在りながらも、調査地とヨーロッパを中心に世界中を移動しながら研究を進めているのも印象的であった。

#### 4. 目的の達成度や反省点（400字程度）

レイ＝ガルシア教授は、南米ボリビアの狩猟農耕民 Tsimane を対象に、市場経済への接触による経済的不平等の生成と抑止に関わるメカニズムについて研究した経験 (Reyes-Garcia et al. 2007 など) を有しており、本研究課題を進めるにあたって貴重な助言を得ることができた。とくに、時間選好性 (time preference) の調査プロトコルについて、詳細な教示とアドバイスを得られたことが収穫であった。

#### 5. 今後の派遣における課題と目標 (400 字程度)

派遣者は、他研究機関 (総合地球環境学研究所) への就職が決まったため、平成 26 年度の派遣プログラムには参加できないが、本研究課題と理論面で関連する国際的な研究プロジェクトに従事するので、バルセロナ自治大学をはじめ、これまでの頭脳循環プログラムによる派遣で得られた海外研究者とのネットワークを生かしながら研究を継続する予定である。



写真 1: バルセロナ自治大学のキャンパスを望む。



写真 2: 環境科学研究所がある理学部の建物入口。



写真 3: 「教育は商品ではなく権利である」と書かれた落書き。自治大学の名のとおり、キャンパスでは自治会活動が盛ん。